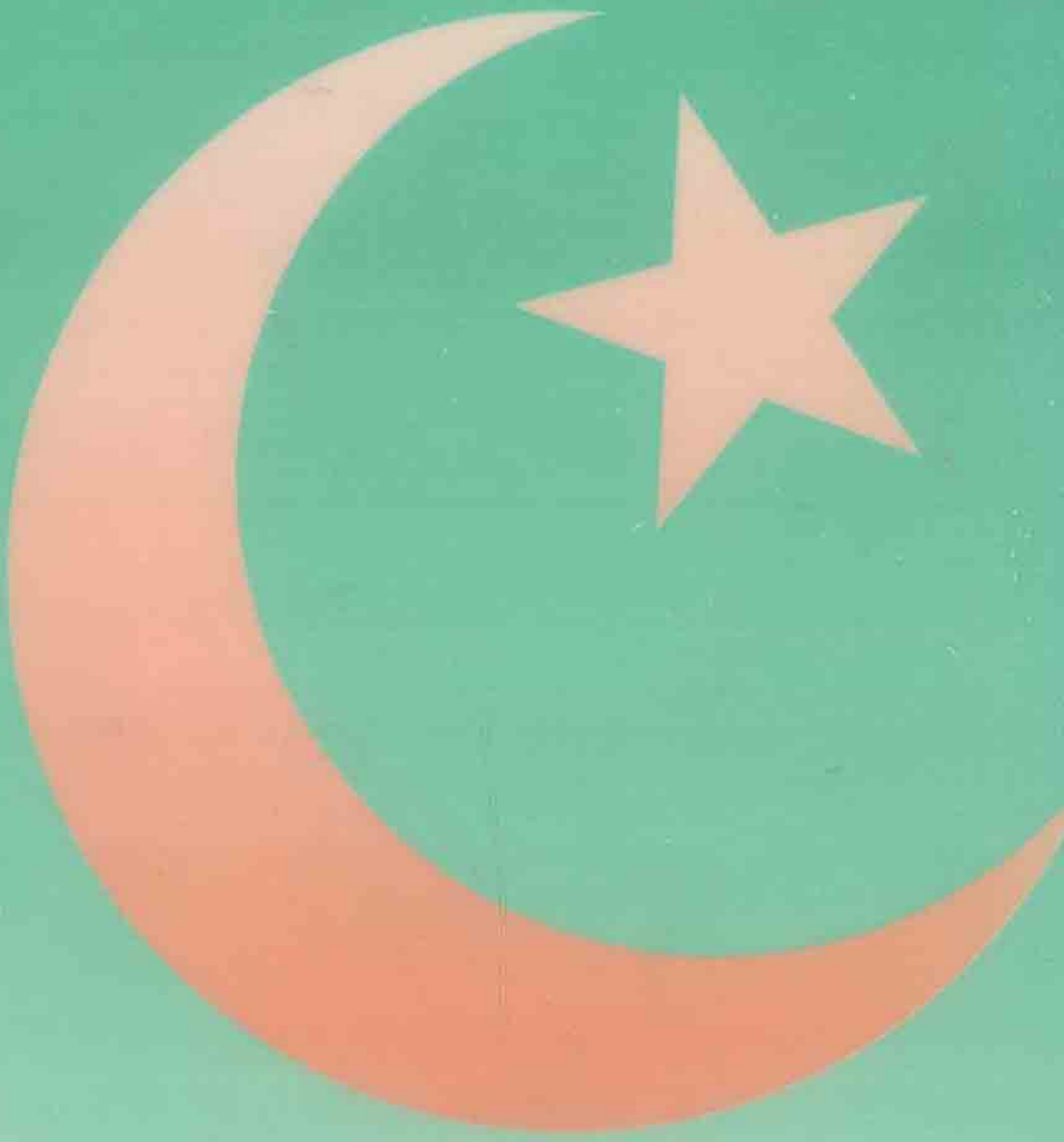
曙(あけぼの)のイスラマバード

木村 駿・木村治美



文春文庫

232—5

曙のイスラマバード

定価はカバーに
表示してあります

1984年11月25日　第1刷

著　者　木村　駿・木村治美

発行者　西永達夫

発行所　株式会社文藝春秋

東京都千代田区紀尾井町3—23　〒102

TEL　03・265・1211

落丁、乱丁本は、お手数ですが、小社営業部宛お送り下さい。送料小社負担でお取替致します

印刷・凸版印刷　製本・加藤製本

Printed in Japan

ISBN4-16-723205-7

文春文庫

曙(あけぼの)のイスラマバード

木村　駿・木村治美

文藝春秋

曙（あけぼの）のイスラマバード　目次

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

プロローグ　9
バザールの迷路で三十年前の日本を見つけた　14
にわか白雪姫は七人の召使いにかしずかれた　26
ヒマラヤ旅行で自動車事故にあった　49
古くて新しい国パキスタンについて考えた　75

日本人はなぜ自己主張をしないのかと問われた　113
ミスター・イノキを知っていますか？　155
アフガニスタンとの国境に立って眺めた　193
エピローグ　231
あとがき　237
文庫版のためのあとがき　239

曙（あけぼの）のイスラマバード

プロローグ

いま、日本中の親たちが、我が子に身につけてほしいと願う第一のものは「国際感覚」だそうです。政治的にも経済的にも、世界がこれだけがっしりと複雑にからみあっていれば、私たち一人ひとりが、世界的視野でものを考えないわけにはまいりません。

でも英語には、「国際感覚」にぴったりとはまることばはありません。しいてさがせば、global perspective あるいは international minded と形容詞的に使う言葉があげられます。欧米の人にとっては、あまりにも当り前すぎるというのでしょうか。いや、じつは広辞苑にものっていないことばなのです。私たち日本人が、いまになって、ことさら「国際感覚」を問題にしなければならないところに、私たちのかかえるむずかしさがよみとれます。

パキスタンを訪れて、私自身がはじめて気がついたことですが、世界を考える私たちの視野

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

は、いままでとても片寄っていたのではないでしょうか。日本が追いつこうとしてお手本とした西欧先進国。石油を売ってくれるＯＰＥＣ。韓国、中国は昔からのおつきあい。東南アジアも同じアジアということで。ソ連はまた特別な意味をもっています。

パキスタンは、それらのどれにも入りません。でもパキスタンを訪れてごらんなさい、パキスタンの人びとが、どれほど日本に興味をもっているか、その置かれている位置が、穴場であるだけに、どれほど重大な国であるか――たとえば米中国交回復の下交渉のため、キッシンジャーがひそかに中国へと飛び立ったのは、パキスタンの首都イスラマバードの空港からでした。パキスタンが、シルクロードの夢幻的な舞台の一つとしてのみとらえられてはなりますまい。

そしてまた、パキスタンという途上国を見ることによって、ほんの十年か二十年前まで、途上国であった日本についての、いまさらながらの理解が深まろうというもの。思ってもみなかった発見があり、覚醒がありました。

また、同じ理由で、いま日本は、先進七カ国の一つとして、先進国サミットにも加わっていますが、その中で、途上国を、より身近に感じることができるのも、日本だけだとわかります。

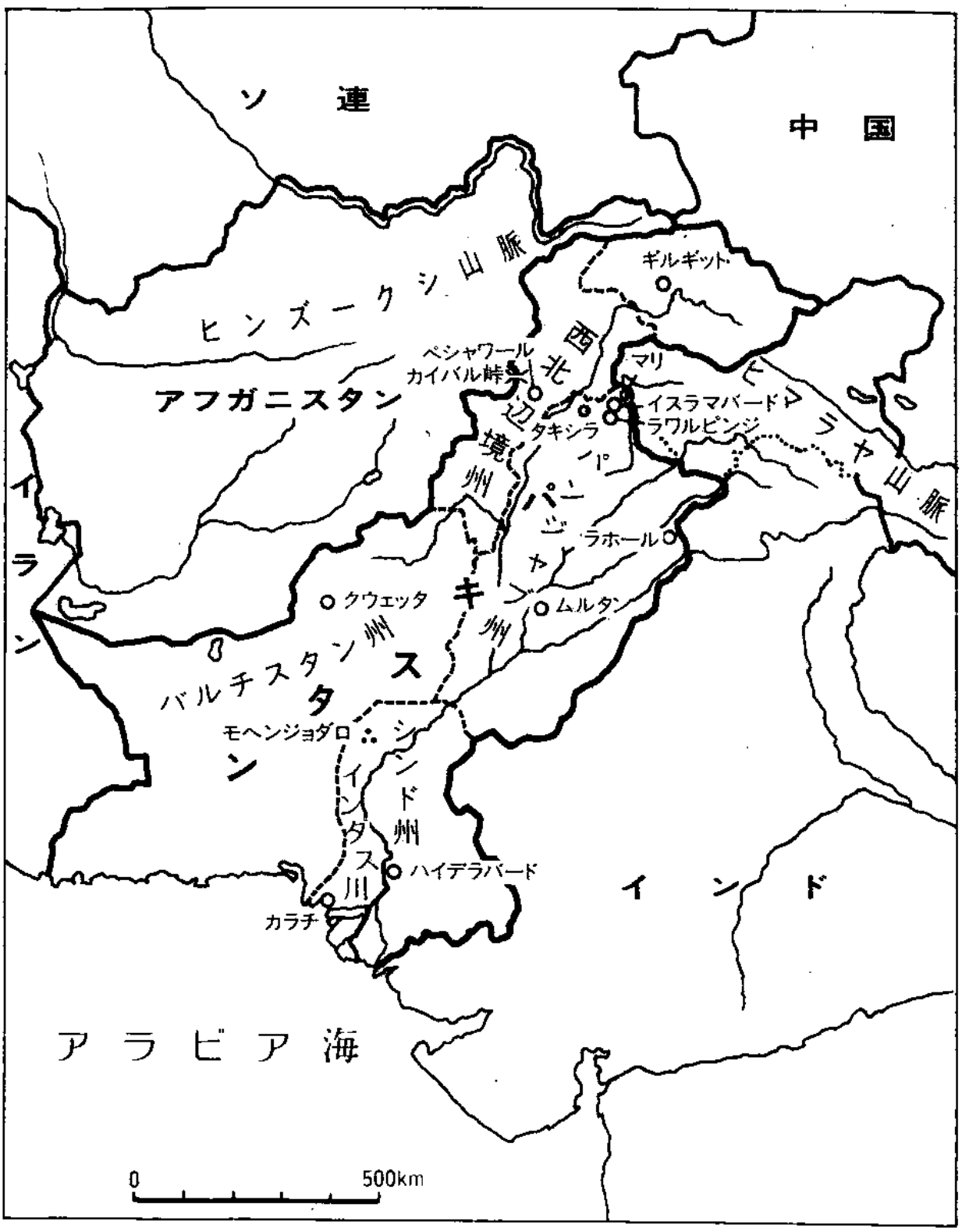
イスラマバードとは、「イスラムの都」の意。私たちに今まではなじみのなかったイスラム

の世界にも、ほんのすこしふれてみることができました。

この本は、私たち夫婦が四十日の滞在中に経験したこと、精一杯理解したことを、父親として、母親として、それこそ、少しでも片寄りのない国際感覚を身につけてほしいという願いをこめて、日本に残してきた娘と息子に書き送る形をとりました。中には実際に手紙として送られたものもありますが、多くはこの本のために、書かれたものです。したがって、多少の時間的ずれがでるのは避けられませんでした。

また、だいたいの役割分担はしたものの、書いているあいだ、私たちはたがいに相手が何を書いているのか知りませんでしたので、重複するところも出てまいりましたが、それはそれで、見方のちがいなど、読みとっていただきたいと思います。

木村治美



1979年９月24日～11月４日

バザールの迷路で三十年前の日本を見つけた

〈母〉

無事に着きました。日本との時差は四時間。イギリスに行ったときには、九時間の時差がありましたから、ちょうど半分ほどの位置にあるわけです。

昨夜このホテルに到着したときは、もう暗くなっていたので、あたりの様子など、なにもわかりませんでしたが、今朝、先に起きたお父さんが、カーテンを開いて声をあげました。

「おお、素晴しい眺めだ！」

まことに、目の前に、緑のなだらかな岡が迫り、裾野からこのホテルまで続く森に、白亜の邸宅が点在し、これこそ理想の田園都市と思わせるものがそこにあったのです。

こんな素晴しい環境ならば、万難を排して、あなたたちを連れてくればよかったと残念でした。一と月や二た月、学校を休んでも、得難い経験をしたほうがよいかもしれませんから。でも、パキスタン、そしてその首都であるイスラマバードは、あまりにも未知の土地であり、あなたたちを無理に同行させるのは不安でもありました。

お父さんが仕事でパキスタンに出張することがきまったとき、お母さんは即座について行こうと決めたものの、パキスタンは、とくに興味をひかれる国ではありませんでした。イランと同じ回教国でも、石油は出ませんし、日本と何らかの関りがあろうとは思えませんでした。

こんな機会でもとらえなかったら、生涯、訪れることとてなかったでしょう。白状しますと、お母さんは、パキスタンがどこにあるのか、地図で確認することからはじめたのです。

それでも位置づけをするのは難しい国ですね、東南アジアとはだいぶちがい、中東の仲間かというとそうでもない。南西アジアといわれることもあります。とにかくインドの西側にあり、独立以前は、インドの一部でした。

パキスタンの都市で有名なのは、アラビア海に面したカラチですが、お母さんたちの滞在するのはイスラマバード。人工都市です。お母さんたちは、日本をたつ前に、できるかぎり調べてみました。緯度は大阪あたりで、かなりヒマラヤに近く、カラチほど暑くはなさそうでした。

「道路も広く、きちんと区画がととのっており、きわめて清潔な町です－

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com